

**16ch ADC/QDC/TDC/PDC Module
A3100/A3200/A3300/A3400
Installation Manual**

Rev 1.0

仁木工芸株式会社

改定履歴

Rev	改定日	改定内容
1.0	Jan 2015	初版

目次

1	ベースアドレスの設定	2
2	VME ボードのベースアドレス設定	2
3	ソフトウェア設定	3
4	ボード種別の認識	4
5	ROOT.....	4
	図表目次	5

A3XXX VME Module Installation Manual

1 ベースアドレスの設定

VME A3XX シリーズは、同一クレート内で最大 7 枚の同時使用を可能としています。(8 枚以上は特注)。

このため、各 VME モジュール(A3100/A3200/A3300/A3400)には各々異なる ID としてベースアドレスを設定する必要があります。

2 VME ボードのベースアドレス設定

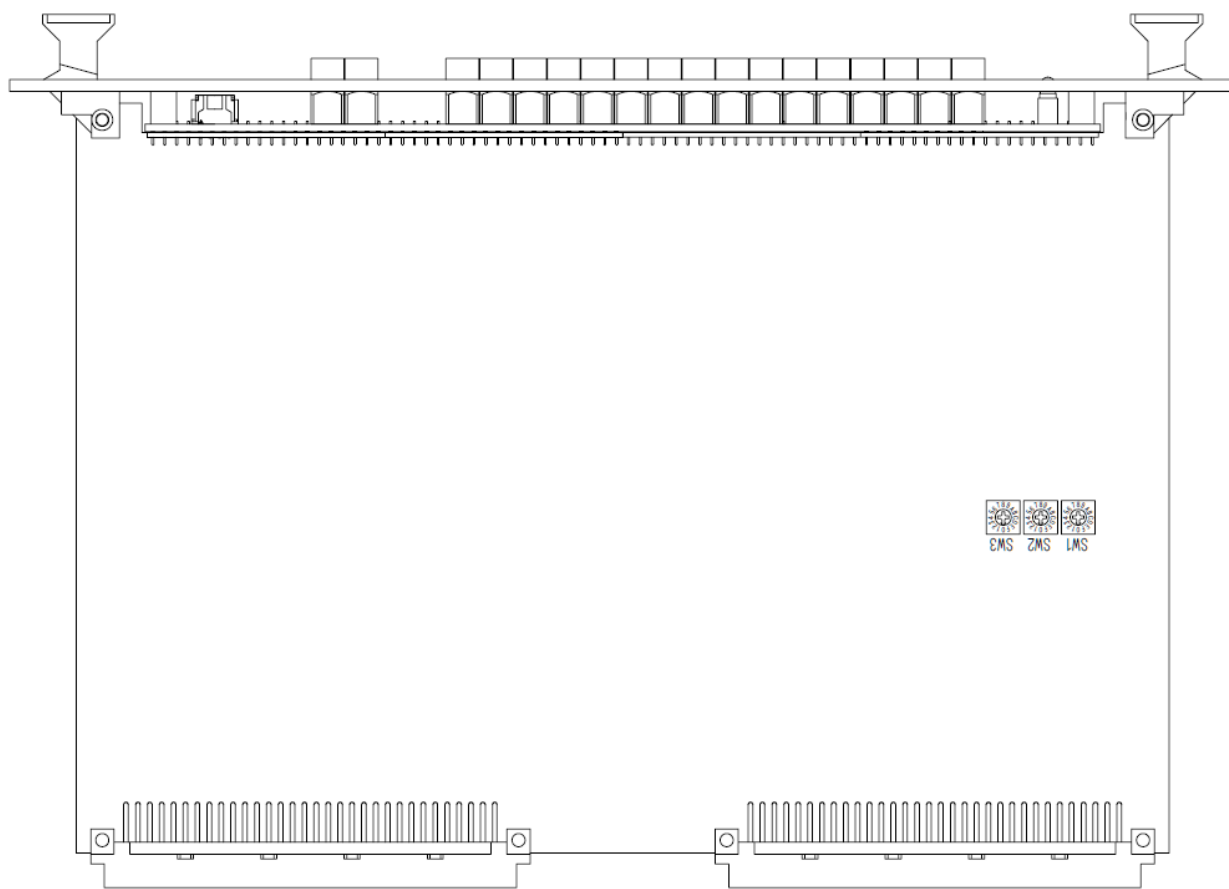


図 1 ベースアドレス設定スイッチ

通常は SW3 のダイヤルで各ボードのベースアドレスを設定します。

1 枚目	0	0x11100000	4 枚目	3	0x11400000
2 枚目	1	0x11200000	5 枚目	4	0x11500000
3 枚目	2	0x11300000	6 枚目	5	0x11600000
			7 枚目	6	0x11700000

VME ボードのベースアドレスの詳細はボードマニュアルの“ベースアドレス”を参照してください。

3 ソフトウェア設定

VME ボードに個別のベースアドレスを設定した後に、制御プログラム 3000E システムの下記パラメータファイルの内容を書き換えます。

3.1 パラメータファイル名と保存ディレクトリ

3.1.1 保存ディレクトリ

変更するパラメータファイルは下記ディレクトリに保存されています。パラメータファイルの変更は ROOT 権限が必要です。

`/usr/share/A3100V2`

3.1.2 Address.def

Address.def ファイルは 3000C で制御する A3XXX のベースアドレスを登録します。同一クレート内で複数枚の VME モジュールを制御する場合、ここに A3XXX で設定したベースアドレスを書き込みます。デフォルトでは 0x11100000~0x11700000 まで記載されています。

初期設定では 2 つめ以降のアドレスは#でコメントアウトしていますので、#を削除することで有効となります。

但し、#コメントアウトは外したアドレスの VME ボード 0 が存在しない場合にはシステムが起動しないことがありますのでご注意ください。

A3XXX VME Module Installation Manual

3.1.3 Winsetting.def

このファイルは A3XXXX の VME との通信間隔、LIST データの分割サイズなどの重要な設定を行います。

1 行目 : 表示するコントロールパネル数を指定します。(1-7) デフォルト : 1

2 行目 : A3XXX との通信間隔を指定します。(単位 ms) デフォルト : 100

3 行目 : Log 1 の表示(1)/非表示(0)を選択します。

4 行目 : LIST データの分割ファイルサイズ (目安) を指定します。 MB 単位

5 行目 : Triggered LIST+TSI 測定時に Over flow bit を付記するかを指定します。

0 : なし、1 : あり。

0 の時 FE# , Input# ,AD ,Time Stump, Event Count

1 の時 FE# , Input# ,AD ,Time Stump, Event Count , Over Flow

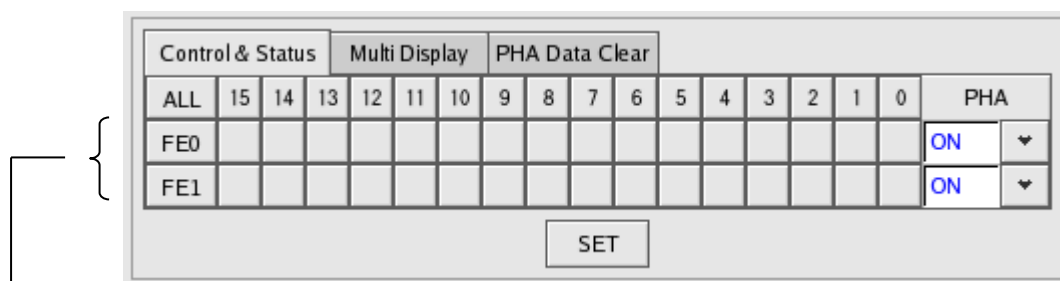


図 2 コントロールパネル

1 行目が 1 の場合には FE0 だけが表示されます。1 行目が 2 の場合には図のように FE#0,FE#1 が表示されます。

4 ボード種別の認識

3000E では、接続された VME クレート電源に挿入された A 3 XXX VME モジュールの種別 (A3100/A3200/A3300/A3400) を自動認識します。

3000C の基本操作はすべての VME ボードで共通で、VME ボードの種類により設定項目のみが変更されます。

5 ROOT

ご購入時 ROOT パスワードは nikiglass に設定されています。

図表目次

図 1	ベースアドレス設定スイッチ	2
図 2	コントロールパネル	4